

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270700507		
法人名	医療法人 水澄み会		
事業所名	グループホーム はまぼうふう		
所在地	島根県浜田市久代町1-7 (電話) 0855-28-3371		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年7月25日	評価確定日	平成20年8月8日

## 【情報提供票より】(20年6月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 13 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤14人, 非常勤1人, 常勤換算14.6人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての 1~2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,500 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有( ) 〇無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 〇無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	2名	要介護2	7名
要介護3	4名	要介護4	5名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 84.7歳	最低 63歳	最高 98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	浜田医療センター・岡本歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いに立つ4年目のホームで、利用者は好きなタバコを吸ったり自分の過ごしたい所で一日を過ごすなど自分らしく生活している。利用者主体の生活ができるよう、制限のあった居室の窓の開閉を自由にするなど全員で話し合いながら改善に取り組んでいる。職員同士のコミュニケーションが大事にされ、管理者は、職員一人ひとりが役割を持ちながら成長することとチームとしての質の向上を目指し職員の育成に力を入れている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域とのつきあい」は運営推進会議で話し合い意識的に取り組んでいる。「馴染みながらのサービス利用」や「災害対策」は引き続き検討課題である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が中心になって自己評価を行い職員に見てもらった。職員は、評価をとおして課題に気づき、一人ひとりが役割を持って改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催し、ホームの活動や利用者、職員の状況を報告している。出席者から防災に対する質問や、地域との交流の仕方の提案、家族の要望などが出され意見を活かしている。今年度からより多彩なメンバーの参加を計画している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議や家族会、アンケート調査の実施などから家族の意見を聞き出している。家族は、利用者の生活に対しての要望を伝え自分たちができることは協力したいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携は開設来の課題であるが、草刈り作業に参加したり、デイサービスの人と交流するなど意識的に取り組んでいる。運営推進会議で話し合いをしながら交流の仕方を模索している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考えたホーム独自の理念を掲げているが、地域密着型サービスとしての内容がわかりにくい。	○	これまでの理念に、地域密着型としての役割を目指した内容を盛り込んでいただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者第一を心がけ、日々の話し合いや会議の中で理念を共有しあい実践に活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が地域の草刈り作業に参加したり、デイサービスに祭りの神輿が来た時に見に行くなど、意識的にできるところから交流を始めている。	○	困難な状況があるが、運営推進会議で参加者から意見が出ているので、工夫をしながら積極的に取り組んでいただきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が中心になって自己評価を行い職員に見てもらった。職員は、評価をすることで課題が明らかになり、一人ひとりが役割を持ちながら改善に取り組んでいる。	○	今後は職員が話し合いながら自己評価をすることが考えられているので期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動や利用者の状況を報告し、地域との交流の仕方や、家族の要望、防災などについて意見交換をしている。意見はサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の開催する地域密着系部会に参加し、情報交換をしながらともにサービスの向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当者と管理者が写真付きの手紙を送り個別に生活の様子を伝えている。金銭報告も毎月行っている。「はまぼうふう便り」を年3回発行しホーム全体の様子も伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、アンケートなどで意見を聞いている。家族からは「外出の機会を多くして欲しい」「できることがあれば協力したい」などの声が聞かれ運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同じ法人内での異動があるが、基本的には顔なじみの職員によるケアを心がけている。新しい職員にはリーダーや教育担当の職員が指導する体制を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に法人内外の研修会に参加し、内容を職員全員で共有しあっている。管理者は職員の育成に力を入れ、毎月ホーム独自の勉強会も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の開催する地域密着系部会を通して同業者との交流を行っている。毎月、法人内の他のグループホームとの話し合いを行い、サービスの質の向上に努めている。	○	職員研修の一環として他のグループホームでの研修を計画し、さらなる質の向上を目指していただきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者や職員は、入居前に自宅や施設を訪問し馴染みの関係を築いているが、利用者自身がホームを見学することが少ない。	○	さらに、利用者が見学できるような工夫をしていただきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として敬い、利用者の言葉を謙虚に受け止めている。利用者の目線で一緒に話したり、感情を理解することができるようになった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や行動から利用者の思いを知り自宅訪問を実現した人もいる。介護相談員を受け入れ、利用者が意見を言える場を作っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制をとり全員で話し合い計画を立てている。家族の訪問時に内容について伝え、意見を聞いている。	○	計画立案の場に家族も参加できるような取り組みを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的な見直しは6ヶ月に一回行っているが、毎月利用者の状態を話し合い、計画を確認しながらケアにあたっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参りなど、利用者の希望による外出支援や、医療連携体制加算をとり利用者の健康管理を行っている。デイサービスやショートのリ認可を取ることを考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が納得したかかりつけ医による受診体制がとられている。定期的な受診し、気軽に相談できる関係ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療的なケアが必要な場合はホームではみられないと考えているが、対応しうる最大限のケアを行うことは入居時から家族に話している。	○	さらに、医師や関係機関とも話し合いを重ねながら、重度化や終末期にむけた対応を検討していただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	一人ひとりの職員が法人のケア実践評価表や虐待チェック表に基づき定期的に振り返りを行っている。トイレの開け閉めや声かけに気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きなタバコを吸う人、自分の洗濯物を管理する人、ほとんど一日ホールで過ごす人など、利用者の希望を大切にした支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に合わせ準備や片付け、食器洗いなどを行っている。職員も利用者と同じ食事を食べているが片付けが早い時がある。	○	さらに、食事の時間が楽しいものになるよう、職員もゆっくりと食事をとることが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態や希望を聞きながら支援している。入浴の嫌いな人にも声かけを工夫している。夜間入浴は実施していないが希望があれば検討する考えがある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、片付け、洗濯物たたみ、花壇の手入れ、掃除など、生活の中で利用者が自分の力を発揮できる場面がある。食事づくりをすることで状態の落ち着いた人もいる。	○	さらに、利用者の生活歴を大切にしながら生き生きとできる場面を多く作っていただきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、買い物、季節ごとの外出行事など、利用者の希望に沿った外出を心がけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームのすぐ前を国道が走っているが、鍵をかけない生活を支援している。1階のユニットは職員が話し合い居室の窓を自由に開けられるように改善した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得てデイサービスと合同で利用者も参加した避難訓練を実施している。地域の協力体制について運営推進会議で話し合う計画がある。	○	地域の人との合同訓練や備蓄なども実現していただきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録している。持病のある利用者の食事についてデイサービスの栄養士に相談している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すために花を飾ったり過度な装飾にならないように工夫している。利用者が自由に過ごせるスペースがあり、自分の好きな所で過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや座椅子など、使い慣れた家具を持ち込んでもらい、利用者や家族の思いを大切にした居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。